

【 道路愛護ポスター 審査員総括 】

道路は、通勤・通学・物流など、さまざまな社会活動にとって、最も身近で重要な公共施設です。

この道路を、美しく安全でしかも快適に利用できるよう、日々、国や県が維持管理を行っていますが、すべてを完全に実施することはかなり困難なことです。道路を取り巻く地域住民やドライバーたちの理解、協力が不可欠です。

道路環境では、一部の心無い人たちによるゴミや空き缶などの不法投棄などにより、地域住民が不快な思いをすることや交通事故へと発展することもあり、大きな問題と考えられます。

そこで、多くの町内会やボランティアの人たちが、定期的にゴミや空き缶などの回収・清掃や花木の植栽などの環境美化活動に汗を流していただいています。

さて、毎年8月に実施される「道路ふれあい月間」運動では、地域住民の花壇整備、歩道清掃等の道路愛護に係るボランティア活動などを通じた道路愛護精神の高揚を図るとともに安全に利用する気運を高めることを目的として、道路交通の安全と道路の正しい利用の促進を図ることを大きな目的としています。

この「道路ふれあい月間」の趣旨を受け、審査にあたっては、道路愛護ポスターの大きなねらいである、「道路が人々の生活にとって欠くことのできない重要な役割を果たしている」ことを子どもたちの視点でどのように表現しているのかを中心に審査をさせていただきました。

今年は、県内小学校24校から、113点もの作品が寄せられました。その中で、子どもたちが考える道路の大切さや道路を取り巻く環境の中で楽しく生活する人たちの姿などが印象に残る作品が数多く見られました。

そのような中で、最優秀賞に輝いた佐賀大学教育学部附属小学校4年生の橋詰武さんの作品は、コピーライト「ありがとう道路はぼくたちの暮らしを支えている」は、頭に「ありがとう」と、道路に対する感謝が満ち溢れているのがとても素晴らしいと思います。8つの円の中には、物流や土木、市民生活などに欠かせない道路の役割が凝縮され、作者のメッセージが強く語りかけてきます。武さんは3年連続最優秀賞受賞という快挙を成し遂げました。

続いて、優秀賞に輝いた6点を紹介します。

佐賀大学教育学部附属小学校1年生の香月葵衣さんの作品は、子どもの未来へとつながる道をきれいな虹に見立て、生き生きと描いています。気持ちがストレートに伝わってきます。

佐賀大学教育学部附属小学校2年生の橋詰桜子さんの作品は、「なかよくつかおうみんなの大切な道」のコピーライトで、行きかう様々な車や人、横断歩道を渡る鳥の一家、太陽や雲に至るまで皆んなの笑顔があふれています。点字ブロックまで描く配慮までしています。桜子さんは昨年度優秀賞に続き2年連続受賞に輝きました。

佐賀大学教育学部附属小学校3年生の高原遥さんの作品は、「道路のおかげで安心だね」のコピーライトで、ペットを連れて横断歩道を渡る子どもたちや車など生き生きしたタッチや色彩が目に残りました。

日新小学校4年生の山口果凜さんの作品は、「救急車がスムーズに通れる道に！」のコピーライトで、交差点を通過する救急車に対し一般車両や行き交う市民の理解と関係性を明快に表現しました。

三里小学校5年生の森永玲夷さんの作品は、鳥瞰図のように交差点付近を見渡し、警察署や住宅、店舗、駐車場、道路関連設備、様々な色や形の車やバイクとその動き、行きかう人々など一つひとつ心を込めて描きました。ジオラマのような楽しさが伝わります。

西川副小学校6年生の中原由來さんの作品は、「暮らしを支える道」のコピーライトで、私たちの暮らしを支え守る様々な代表的な車両を道路上に敷き詰め、道路の大切さや必要性を明快に伝えました。

最後に、子どもたちへの「道路愛護」精神の普及と道路愛護活動への理解と広がりをお願い、そして、子どもたちの願いのこもったすばらしい作品を今後ますます期待し総評とします。